第1回　生活支援プロジェクト　記録

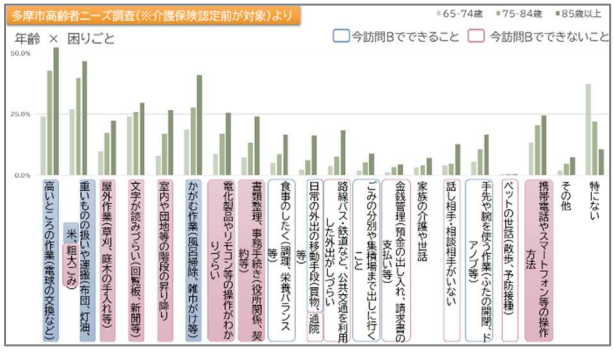
開催日：2025 年 5 月 14 日（水）
記録作成日：2025 年 5 月 21 日（水）
参加者（別紙参照）

1, 新たなメンバーの自己紹介

参加者リスト　参照

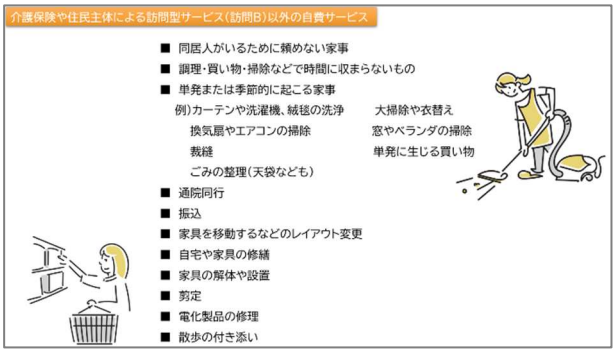
2, 振り返り

訪問 B を含めた生活支援の課題の整理を実施してきた。(別紙)
①訪問 B にまつわる部分　→　訪問 B の検討会
②住民主体による訪問型サービス(訪問 B)と、介護保険のヘルパーの行っていること、自費でできること、すき間で抜け落ちている生活支援について　→生活支援プロジェクト



【介護保険未認定の方の生活上の困りごとは？】
ニーズがあるものであっても、サポーターやヘルパーでは対応できないというものもある
※サポーターやヘルパーは、制度上対応できない生活支援がある

【自費サービスの提供内容は？】



【昨年度最後のプロジェクトからの意見】

3, 意見交換

※訪問 B のパッケージ化の提案は、以前の第1層 SC の際に提案している

【多摩市らしいとは？…多摩の現状は？】

・高齢化率は高いけど、住民活動活発！NPO も多い
・サロンや自治会や老人クラブや住民さん同士の助け合いも聞く
・住民同士の助け合いに参加できる人・できない人が二極化している　新しい人は参加できていない
・今日、今すぐ助けてという声も多くはないがある
・戸建ての高齢者だと、地縁で親族に頼んでいる方も多い印象
・事業所含めて多摩市には 4000 ぐらい企業がある

【企業はどう感じているか？】

・実際には、ちょこっとやっていることもある
・補助金が出るなら＋αの活動も考える
・業務のために自宅に入った時、「ここまでやっていいのかな」と思うことはある
　→他の人がやるべき事？　現状ではケアマネ・地域包括支援センターにつなぐところまでとしている
　→「やっていいよ」と言われても、件数が多くなれば本業圧迫で回しきれない
・パルシステムと御用聞きのコラボで「暮らしのちょこっとお手伝い」はじまったところ15分間 330 円
・生協は法律があるので、何かするにしても組合員にのみ
・困った人にサービス紹介ではなく、その場でちょこっと手助けできる仕組みもあったらいいなと思う
・本業にプラスするというのも過去に発想はあった（ニーズもあるのはわかる）が、コスパを考えると厳しい
・善意だとやらないスタッフもいると考えると、補助金があると「会社としてやる」と言える
・大きい企業は、企業として協力するとなると本社まで確認が必要で煩雑　個人にバックが返る方がいい

【担い手確保として方法の工夫】

・助成金ではなくポイントという考え方は？ボランティアポイントを見直すということもできるのか？
　担い手は高齢者対象だけでなくできるのか？管理する事業所がないと今はできない
　　※人生100年活躍ナビの Tokyo ポイントは使えるポイントになる
・チケット制の助け合いとして、チケット購入への補助というのもありなのか？（有償ボラへの補助）
・ゴミシールのような仕組みを活用できないか（短時間のほうが安い）
・ボランティアは限界があると感じる（一時的にはできるが）せめて有償・対価などがないと持続しない
・いろんな形でポイントやチケットなどツールを考えてもいいのでは？（還元率はそろえて）
・会社に補助金なのか、個人にバックなのか、どちらもメリットデメリットはある　両方考え
・多摩市に住んでいない人、高齢者だけでなく若者にもバックできる方法（ポイント・現金・フランチャイズ店の割引券など）を考えられていけるといい？

【情報発信・収集について】

・手助けしてあげられたらいいけれど躊躇する際に、情報提供ツールがあるといい
・助け合いや生活支援をしあっている活動の情報を集めるコツとして、どんな情報を集めたいかを整理して、
　まずは想いもあり理解しているところをピンポイントにあたる　その先からは基準を考えつつ
・コミュニティナースのような考えも必要ではないか

4, 今後についてまとめ

【今年度】

〇生活支援の活動の情報収集を 1.2 層SCで進める→年度末までに一覧としてまとめる
〇チケットやポイントの仕組や、担い手の供給先について市と1層 SC と協議し、民間・NPO 団体とも相談・協議していく

【宿題】

自分が、または自分の周囲の人が使うときを想像して、どうだったら使いやすいかイメージして持ち寄る

次回　6月以降予定　決まったらお知らせする